

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。 2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。 3. 北摂唯一の府立の工科高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。 4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。 5. 中学校や生徒、保護者から「丁寧でめんどうみのよい学校」と言われるなど、地域等から愛される学校をめざす。
--

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成 (1) 「主体的・対話的で深い学びを実現する」授業づくりを推進しながら、基礎学力の確実な定着を図り、「分かりやすく楽しい」授業を創出する。 ア ICTを活用した授業の推進（1人1台端末の効果的な利用） イ 少人数展開授業、習熟度別展開授業、および希望者への課外講習の実施 ウ 工業の基礎学力の定着 (2) 問題解決能力を育成するPBL（キャリアガイダンス、総合的な探究の時間、課題研究）の授業を推進し、特色ある教育活動の充実を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価の目標を令和8年度は72%以上とし、令和10年度に75%以上とすることを目標とする。 (R5年度71.3%, R6年度71.3%, R7年度71.4%)
2 安全安心で魅力ある学校づくり (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。 ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身に付けさせ、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。 イ 教育相談体制を充実させるとともに、支援教育を推進する組織の活性化を図り、学校生活への定着を図る。 ウ 人権教育の推進を図る。 ※ 中退率2%未満をめざす。(R5年度2.0%, R6年度1.3%, R7年度4.1%) (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。 ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取組みを推進する。 (3) 行事（文化祭・体育祭・校外学習）や部活動（生徒会活動）やSDGsに取り組むことにより、生徒の自己有用感を協調性と社会性を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。 ア 文化祭・体育祭および校外学習の充実 イ 部活動、生徒会活動の活性化 ウ 生徒会主体の社会貢献活動 ※ 年間遅刻総数について、令和8年度975件以下に削減することを目標とし、令和10年度は900件以下とすることを目標とする。 (R5年度1133件, R6年度1349件、R7年度928件) ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。 ※ 部活動の加入率を令和8年度には47%以上とすることをめざし、令和10年度には50%以上をめざす。(R5年度43%, R6年度31%, R7年度46%,)
3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～） (1) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。 ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。 (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。 ア 資格取得や就職試験に向けた全校的な協力体制を推進する。 イ 生徒の希望する進路実現に向けた組織的・計画的な進路指導体制を確立する。 (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。 ※ 工学系大学進学専科における理工学系大学等への進学希望者の進学率100%をめざす。(R5年度100%, R6年度100%, R7年度100%) ※ 学校紹介による就職内定率100%を堅持する。 ※ インターンシップ参加者数割合を令和8年度33%以上とすることをめざし、令和10年度には40%以上をめざす。(R5年度45%, R6年度53%、R7年度29%) ※ 特色ある教育として、Society5.0に対応できるIoT技術者を育成する。
4 地域連携・地域貢献の取組みの推進 (1) 地域の中学校教員との情報交換（中高連絡会）や学校訪問、出前授業等の充実を図るなど、中高連携を推進し、アドミッションポリシー（求める生徒像）が中学生、保護者等に明確に伝わるよう学校情報を積極的に発信する。 ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向けの施設見学会等を卒業生や在校生の協力も得て実施することより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解（工科高校の「再発見」）を促し、志願者増加につなげる。 (2) 学校設定科目「課題研究」における「ものづくり」技術を活用した地域貢献活動を通じて、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。 ア 課題研究発表会を定着、発展させ、プレゼンテーション能力を育成するとともに、地域に積極的に公開し、工科高校の特色を広く伝える。 ※ ものづくり教室などのワークショップ等の開催で本校の取組みを発信するとともに地域の方々と交流をおこなう。 ※ 地域の小・中学校に対して、アルミ製朝礼台等を製作し、寄贈することを継続し、地域に工科高校の特色を周知する。
5 働き方改革の推進 (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。 (2) ストレスチェックの内容を活かした、働きやすい職場環境づくりをする。 ※年間時間外在校等時間720時間超えの教員をゼロにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R7年度値]	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1)「主体的・対話的で深い学びを実現する」授業づくり推進、基礎学力の確実な定着し「分かりやすく楽しい」授業を創出 ア ICTを活用した取り組みの推進（1人1台端末の効果的な利用） イ 少人数および習熟度別の展開授業の実施	(1) ア ICT活用の初任者・10年経験者等による公開授業を実施し、校内のICT活用授業を推進する。 イ・工業科目の実習において少人数展開授業の実施し、専門的な技能・技術の確実な定着を図る。 ・1年数学で1クラス2展開の習熟度別授業を実施。 ・数学Ⅲで、習熟度別2展開の授業実施。 ・工学系の理科で、課外に希望者補習をする。	(1) ア 生徒用学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率79%以上。[77.4%] イ 生徒用学校教育自己診断「授業はわかりやすくて楽しい」肯定率73%以上。[71.4%]	

府立茨木工科高等学校

	ウ 工業の基礎学力の定着 (2) 問題解決能力を育成するPBLの授業を推進、特色ある教育活動の充実を図る。	ウ 「工業入門」において、機械、電気、環境科学システムの3系の専門技術を学ぶうえで必要な基礎学力の定着を図る。 (2) 3年課題研究で、発表も含め高評価の課題研究ができる生徒を育成する。	ウ 計算技術検定4級合格率80%以上を維持[81.7%] (3) 校内「課題研究合同発表会」の平均評価 80%以上。[75%]	
2.安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。 ア・遅刻数削減、身だしなみ規律・授業規律確立、自転車交通安全の取り組み イ・教育相談体制を充実させ、中退率の減少を図る。 ウ 人権教育を推進し学校全体の人権意識を向上させる。 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取り組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 行事や部活動(生徒会活動)やSDGsに取り組むことにより、自己有用感を醸成し、帰属意識を高める。 ア 文化祭、体育祭、校外学習の充実 イ 部活動、生徒会活動の活性化 ウ 生徒会主体の社会貢献の取り組み	(1) ア・毎回の遅刻理由をカウンセリングマインドで確認をし、きめ細かい遅刻指導を取り組み、遅刻しない生活態度を醸成する。 ・生徒の理解のもと、身だしなみ違反カード制と授業規律違反カード制を徹底し、一層、規律ある学校生活態度を醸成する。 ・自転車交通安全の為の法規、保険について、外部講師による講演を実施し、自転車交通安全の意識を醸成する。 イ・教員同士が、迅速かつ継続的に生徒情報を共有できる教育相談体制を構築し、個に応じた支援・配慮を充実させながら、中退率の減少を図る。 ウ・生徒に対して人権HRと人権映画を実施 ・教職員人権研修を推進し、教員の人権意識を醸成 (2) ア 行事後、考査前の一斉清掃を徹底し、校内美化を推進するとともに、実習室なども清掃を徹底する。 (3) ア・文化祭・体育祭、校外学習への工夫を充実させる イ・新入生に対する入学当初の部活動および生徒会の活性化を図り、加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。 ウ・生徒会主体の、SDGsの取り組み、校外清掃活動や募金活動、NGO 団体・近隣中学と連携したエコキャップ運動等の社会貢献活動に取り組む。	(1) ア・遅刻総数 975 件以下。[928 回] ・生活指導アンケートで、違反カードの理解度「身だしなみ」85%以上。[94.2%]、「授業規律」85%以上。[91.6%] ・生徒用学校教育自己診断「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 80%以上を維持 [80.6%] ・生活指導アンケートで「自転車危険運転で警察に注意された」10%以下。[4 %] イ・生徒用学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答 70%以上。[68.1%] ウ・生徒用学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある。」肯定率 85%以上を維持 [85.7%] ・教職員用学校教育自己診断「同和問題を正しく理解し、差別や偏見のない主体的な生き方につながる教育の為、教職員の学ぶ場がある。」肯定率 85%以上 [82.6%] (2) ア・保健安全指導部による清掃点検における○(良好) 95%をめざす。[93.8%] ・教職員用学校教育自己診断「この学校では、清掃がいきとどいている。」肯定率 72% [69.6%] (3) ア・生徒用学校教育自己診断「文化祭・体育祭は楽しく行えるように工夫されている。」肯定率 74%以上 [73.1%] ・「遠足や修学旅行は、楽しく行えるよう工夫されている。」肯定率 85%以上 [84.1%] イ・部活動加入率 47%以上[46%] ウ・校外清掃参加生徒数 60 人以上を維持[65 名]	
3.自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア・インターンシップへの取り組み (2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、 ア 資格取得に向けた全教職員の協力体制の推進 イ 生徒の希望する進路実現に向けた組織的・計画的な進路指導体制の確立 (3) 大学、専門学校への進学希望生徒に対する支援、適切な進路指導 ア 生徒保護者へ適切な進路情報の発信	(1) ア 地域産業との連携を深め、受入企業の安定確保に努めるとともに、インターンシップの利点や成果をPRし、参加生徒の推進を図る。 (2) ア・生徒の資格取得支援の為、課外授業も活用する。 イ・就職試験のための個々に応じた面接指導の取り組みを充実させる。 ・教育産業の支援を受けながら、適性をより客観的に把握し、就職におけるミスマッチを防止する (3) ア 大学、専門学校進学希望者に対し、本人の学力や適正に応じた進路指導を行い、各個人に適応した受験先を決定に努める。	(1) ア・参加生徒2年生 33%以上をめざす[29%] (2) ア・「第二種電気工事士」電気系2年合格率 65%以上 [62%] ・「危険物取扱者」合格者数 20 人以上[21 人] ・「旋盤技能検定3級」合格者輩出[5 人] イ・生徒用学校教育自己診断「学校は進路についての情報をよく知らせる」肯定率 85%以上維持[88.1%] ・第1次就職試験合格率 85%以上維持。[91%] (3) ア 進学生徒の第1希望(初回受験校)進学決定率 95%以上維持。[96.9%]	
4.地域連携・地域貢献の取り組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解(工科高校の「再発見」)を促す取組み (2)「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究による取組み (3) 地元自治会、行事への参加、連携 ア 部活動による地域連携 イ 本校教育活動の地域への発信	(1) ア・学校の魅力を伝えるため、地域の小中学校に積極的に働きかけ、出前授業(説明会)を積極的に行う。 ・校内開催の学校PR行事を実施しながら、魅力発信の改善を推進する。 ・ホームページやインスタグラムを活用し、より多くの更新を行うことにより、学校情報を効果的に発信する。 (2) ア・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈継続と、新たな近隣教育施設へのものづくり支援や教育支援への拡充を図る。 (3) ア・地元自治会行事において部活動を中心とした地域連携をおこなうことにより、学校教育活動の発信および生徒の自尊感情向上につなげる。 イ・地域の方々との交流型イベントを開催し、本校教育活動の発信および相互交流をおこなう。	(1) ア・10 校以上の出前授業(説明会)実施。[10 校] ・延べ参加者数 700 名維持。[751 名] 参加者アンケートによる満足度 90%以上を維持。[91%] ・ホームページ・インスタグラム合わせて更新回数 150 回をめざし、学校の魅力を発信する。[135 回] (2) ア・地域の小中学校へのアルミの朝礼台寄贈(1 台) [1 台] (3) ア・地元行事への出席、地域の文化祭やイベントへの参画(年間2回以上) [2 回] イ・ものづくり教室・ワークショップ2回開催維持 [3 回]	
5.働き方改革の推進	(1) 校務の効率化と部活動活動方針の遵守 (2) 働きやすい職場環境づくり	(1) 働き方改革の観点から ICT 活用の推進により業務の精選・効率化を図るとともに、部活動活動方針の遵守を推進し、超過勤務の削減に努める。 (2) 昨年度ストレスチェックの内容を生かし、校務の業務効率化、サポート体制を図り、ストレス軽減・健康増進に向け、働きやすい職場環境を実現する。	(1) ・年間時間外在校等時間 720 時間超えの教員をゼロにする。[2 名] (2) ストレスチェック集団分析結果において、全国平均を 100 として A 仕事の量的負担・コントロール度・・・100 以下を維持 [96] B 上司・同僚のサポート・・・100 以下を維持 [96] C 総合健康リスク・・・100 以下を維持 [92]	